北海道の体育

体研連ミニ広報

No. 3

令和５年 12 月 15 日（金）

第 33 回全道研究担当者研修会報告

令和５年 12 月１（金）に全道研究担当者研修会が、開催されました。今回は札幌市学校体育研究連盟中学校ブロックの研究授業を通し、充実した研修となりました。

第 33 回全道研究担当者研修会

〇12 月１（金）12：30～

札幌市立真駒内中学校にて

体研連　秀島　起也　委員長

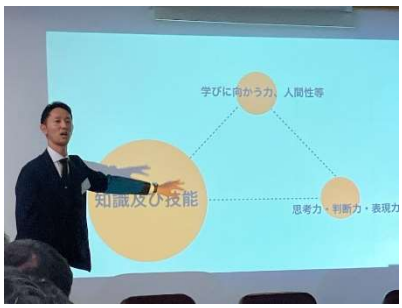
11 支部より 19 名が出席され、役員 14 名、事務局員 15 名を合わせて 48 名の参加となりました。また、日本体育大学教授　近藤　智靖氏、北海道教育大学札幌校教授　中島　寿宏氏をご来賓として招いての開催となりました。秀島　起也委員長の挨拶で会が始まりました。

各支部、事務局の自己紹介の後は、嶋本　剛事務局長よりこれまでの活動経過報告がなされ、支部の活動状況報告では、十勝大会の実践を各支部でどのように追試実践していくかを考えているといった、全道大会を通して各支部がさらに研究を深めていく気概が感じられました。

体研連　嶋本 剛　事務局長

研究推進報告では、全道大会十勝大会の報告と河本　岳哉（小）研究部長より、再来年度の全国大会に向けて全道で大切にしていきたいことを４つのキーワードでお話がありました。

最後に千葉　智明副委員長の挨拶で閉会となりました。



河本研究部長より全国大会に向けて

全道代表者研修会各支部報告の様子

授業公開

札幌市立真駒内中学校の大山　綾花教諭が、中学校１年生の創作ダンスの授業を行いました。本時は８時間単元の７時間目で、チームで＜喜＞＜怒＞＜哀＞＜楽＞を表現する創作ダンスを創る学習でした。

≪エモーションタイム≫

毎時間、感情即興ダンスづくりを活動に取り入れることで生徒たちが少しずつ表現をできるようになってきていました。第１時は＜動物＞といった具体的なものから本時は＜色＞を表現していました。＜色＞といった抽象的なものを体で表現する難しい課題でしたが、生徒たちは思い思いの色のイメージを即興的に表現していました。

≪課題把握～課題解決に向けて≫

前時で、＜喜＞＜怒＞＜哀＞＜楽＞を表現したい人たちでチームを作り表現しました。本時は「さらに良くするためのプラスαは何だろう」と生徒たちはワークシートに自分たちに考えを書いていました。表現をよりよくするためのポイントを話し合い、前回のチームの表現を動画で視聴し、自分たちの課題を見付けていました。

≪課題解決≫

一人一人が感じたチームの課題を共有し、解決するためにはどのような動きを表現に取り入れたらいいのかを各チームで話し合い、活動を行いました。それぞれのアイデアを取り入れながらどのような動き、どのようなストーリーにしていくのかを真剣に、そして楽しそうに話し合っている姿が素敵でした。

話合の最中に各チームの表現の音楽を流し、自分のチームの音楽が流れると話合を中断して、動きを確認する場面がありました。イメージを実際に動いてみることで、イメージが共有化できていました。その中で、動きながら話し合う方が共有化しやすいと気付き、自分たちの音楽が流れていなくても動きながら隊列や動きを創るようになってきました。次第に笑顔が増え、創作していく喜びを味わっているようでした。

最後に次時のチーム発表会に向けて動画を撮影しました。見合うのは次回でしたが、互いのチームの作品を認め合い、拍手が起こる場面がありました。

チームの課題を見付け、解決に向けて主体的に動く姿が数多く見られました。

※今回の創作ダンスの学習の動画が、体育連盟のホームページの単元構造図から見ることができます。
ぜひ一度ご視聴ください。

全体会・中学校ブロック研究発表

公開授業後、研究討議が行われました。討議内容は主に、「生徒一人一人の考えを可視化すること」に焦点があてられ、各支部の先生方から活発な意見がかわされました。

研究討会後、札幌市教育委員会の大巻指導主事より、助言をいただきました。

最後に令和７年に開催する第 64 回全国学校体育研究大会北海道大会担当理事の日本体育大学教授　近藤　智靖教授より全国大会に向けた目指す授業像についてお話をいただき、閉会となりました。

※研修会、授業の様子等は、機関紙 123 号にも掲載されます。

（文責：広報部　髙橋）